

令和5年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コース	履修区分	単 位 数
国語	論理国語	2	人文・英語・医療看護	必修	3
使用教科書 副教材等	「探究 論理国語」（桐原書店） 「近代小説四選」（桐原書店）				
学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を養う。				

授業計画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期末 考查まで	評論 「チンパンジーは『おせっかい』をしない」 論文を読む 「変身に伴う快楽と恐れ—『山月記』を通じて」 評論解析 「科学と市民」「集落の創造」	- 論理展開が明解な文章を読んで、評論の基本的な読み方を習得する。 - 文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えるとともに、小説を読み解く視点を広げる。 - 評論の基本的な読み解き方を習得し、論理構造を把握した上で筆者の考えの核心を理解する。
二学期中 間考查まで	評論 「木を伐る人／植える人」 評論解析 「『物語』としての伝統」	- 文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えるとともに、自然と人間の関係を見つめ直し、思索を深める。 - 評論の基本的な読み解き方を習得し、論理構造を把握した上で筆者の考えの核心を理解する。
二学期末 考查まで	評論 「ロボットは心を持つか」 評論解析 「『資本』の出現」	- 文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えるとともに、進歩する技術と人間のありようについての考えを深める。 - 評論の基本的な読み解き方を習得し、論理構造を把握した上で筆者の考えの核心を理解する。
学年末 考查まで	体験と思索 「カフェの開店準備」 論文を読む 「淋しい人間—『こころ』を通じて」	- 深い思索をもとに日常のありさまを綴った文章を読んで、自分自身の日々のあり方について考えを深める。 - 文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えるとともに、小説を読み解く視点を広げる。
評価方法	知識・技能…ノートへの書き込み、小テスト、ワークシート、定期考査 思考・判断・表現…授業への参加姿勢や態度、授業の発問への反応、ノートへの書き込み、ワークシート、定期考査 主体的に学習に取り組む態度…学習活動への参加姿勢や態度、ノートへの書き込み、課題の提出状況、課題テスト、定期考査	

令和5年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コース	履修区分	単 位 数
国語	古典探究	2	人文・英語・医療看護	必修	3
使用教科書 副教材等	高等学校 古典探究（数研出版）				
学習目標	我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めるとともに、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				

授業計画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一 学 期 末 考 査 ま で	説話 「大江山」 故事 「漱石枕流」「華歆・王朗」 「江南橘為江北枳」 歌物語 「伊勢物語」「大和物語」	- 古典を読むために必要な文語のきまり、文章の構成や展開、評点の特色について理解を深める。 - 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げ深める。 - 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。
二 学 期 中 間 考 査 ま で	随筆 「徒然草」 中国の詩 「絶句」「律詩」 日記文学 「更級日記」 史伝 「鴻門之会」	- 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える。 - 言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深める。 - 積極的に作者の心情をとらえ、学習の見通しをもって自分の考えを広げ深める。 - 登場人物の人物像を踏まえて、作中の行動の経緯・理由を粘り強く考察する。
二 学 期 末 考 査 ま で	随筆 「枕草子」 史伝 「四面楚歌」「項王自刎」 物語 「源氏物語」	- 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える。 - 登場人物の人物像を踏まえて、作中の行動の経緯・理由を粘り強く考察する。 - 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを広げ深める。
学 年 末 考 査 ま で	和歌 「古今和歌集仮名序」 思想 「荀子」「老子」「韓非子」 日記文学 「建礼門院右京大夫集」 歴史物語 「大鏡」	- 古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げ深める。 - 先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 - 関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める。 - 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について理解する。
評 価 方 法	知識・技能…ノートへの書き込み、小テスト、ワークシート、定期考査 思考・判断・表現…授業への参加姿勢や態度、授業の発問への反応、ノートへの書き込み、ワークシート、定期考査 主体的に学習に取り組む態度…学習活動への参加姿勢や態度、ノートへの書き込み、課題の提出状況、課題テスト、定期考査	

令和5年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コ ー ス	履修区分	単 位 数
地理歴史	世界史探究	2	英語・人文	選 択	2
使用教科書 ・副教材等	詳説 世界史 世界史探究（山川出版社） ニューステージ世界史詳欄（浜島書店） 授業用詳説世界史整理ノート（山川出版社） 世界史 重要語句 Check List 2023（啓隆社） 要点整理 ゼミナール世界史（浜島書店）				
学習目標	世界の歴史の大きな枠組みと流れを理解させ、文化の多様性を広い視野から考察させること によって、歴史への興味・関心を高め、歴史的思考力を養う。				

授 業 計 画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期末 考查まで	第1章 文明の成立と古代文明の特質	・世界各地の古代文明の特質を把握し、人類の歴史にどのような影響を与えてきたのか、理解する。
	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界	・東アジアの地理的特質を把握し、中国文明の起源、殷・周の成立から秦・漢帝国の動向までを理解する。
	第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開	・南アジアの地理的特質を把握し、インド文明の成立と発展、独自の宗教・社会制度など、南アジア世界の形成過程を理解する。 ・東南アジアの地理的特質を把握し、東南アジア世界における国家形成の過程を理解する。
二学期中 間考查まで	第4章 西アジアと地中海周辺 の 国家形成	・東アジアにおける北方遊牧民族の動向と、三国時代から魏晋南北朝という中国の分裂と動乱の時代を理解する。 ・隋唐帝国の国家制度や文化、日本を含む東アジア世界諸国の国家体制の整備やその動向を理解する。 ・西アジア世界や地中海周辺の地理的特質を把握し、エーゲ文明、ギリシア・ヘレニズム文明、大帝国内に発展したローマ文明の特徴を理解する。
二学期末 考查まで	第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	・イスラーム世界成立の背景とその特質、アラブ人による発展とイスラーム帝国の形成を理解する。 ・地中海世界解体後、ヨーロッパ世界が東西に分かれ、ゲルマン人移動後の西ヨーロッパでは、外部勢力との対抗の中で封建社会が形成されていったことを理解する。
	第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向	・インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化など、イスラーム世界の拡大の過程を理解する。 ・内陸アジア世界におけるトルコ人の活動とイスラーム化の進展を理解する。
学年末 考查まで	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開	・十字軍以降の西ヨーロッパ中世世界の変容と諸国の動向を理解する。 ・教会と修道院、大学やスコラ学などから、ヨーロッパ中世文化の特色を理解する。
	第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国	・契丹や女真といった遊牧諸勢力の台頭や日本を含めた東アジア諸地域の勢力交替、宋の興亡と社会や文化の特色を理解する。 ・モンゴル帝国の興亡と、その活動が日本を含む諸地域世界に与えた影響の大きさを理解する。 ・清朝の形成した広大な領域支配とその社会や文化とともに、東アジア世界の動向を理解する。
評価方法	【関心・意欲・態度】 授業態度・ノート整理等 【思考・判断・表現】 定期考查・ワークシート・発表 【資料活用の技能】 授業態度・ワークシート・発表 【知識・理解】 小テスト・定期考查 以上の4観点から総合的に評価する。	

令和5年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コ ー ス	履修区分	単 位 数
公民	公共	2	全	必 修	2
使用教科書 ・副教材等	高等学校公共（第一学習社） 公共ノート（第一学習社） フォーラム公共（とうほう）				
学習目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				

授 業 計 画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期期末 考查まで	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち Ⅰ 公共的な空間と人間とのかかわり Ⅱ 社会に参画する自立した主体として 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 Ⅰ 人間としてのあり方生き方についての探求 Ⅱ 選択・判断の手がかりとなる倫理的価値 第3章 公共的な空間における基本的原理 Ⅰ 自立した主体となることに向けて Ⅱ よりよい公共的な空間づくりをめざして	・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学ぶ。 ・古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。 ・古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解する。
二学期期末 考查まで	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 法的な主体となる私たち 第2章 政治的な主体となる私たち	・憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。 ・よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。
学年末 考查まで	第3章 経済的な主体となる私たち 第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	・公正かつ自由な経済活動をおこなうことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。 ・持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動を行う。
評価方法	① 定期考查 ② 課題考查 ③ 授業態度 ④ 課題・提出物 以上を総合的に判断して評価します。	

令和5年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コース	履修区分	単 位 数
地理歴史	日本史探究	2	英語・人文	選択	2
使用教科書 副教材等	詳説 日本史 日本史探究（山川出版社） 図説 日本史通覧（帝国書院） 日本史重要語句 Check List 2023				
学習目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				

授業計画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期末 考查まで	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権 第3章 律令国家の形成	① 人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する ② ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 ③ 律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。
二学期中 間考查まで	第4章 律令国家の展開 第5章 院政と武士の躍進	① 藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。 ② 院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。
二学期末 考查まで	第6章 武家政権の成立 第7章 武家社会の成長	① 鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ② 南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。
学年末 考查まで	第8章 武家社会の成長	① 南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ② 庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。
評価方法	【関心・意欲・態度】 授業態度・ノート整理等 【思考・判断・表現】 定期考查・ワークシート・発表 【資料活用の技能】 授業態度・ワークシート・発表 【知識・理解】 小テスト・定期考查 以上の4観点から総合的に評価する。	

令和5年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コース	履修区分	単 位 数
数 学	数学Ⅱ・数学B	2	英語・人文・医看	必 修	5
使用教科書 副教材等	高等学校 数学Ⅱ、高等学校 数学B（数研出版） 4プロセス 数学Ⅱ＋B（数研出版）、チャート式 Ⅱ＋B（数研出版）				
学習目標	図形と方程式、三角関数、指数・対数関数、微分法、積分法、ベクトル、数列についての理解を深め、基礎的な知識と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばし、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。				

授業計画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期末 考查まで	数学Ⅱ 第3章 図形と方程式 1 点と直線 2 円 3 軌跡と領域 数学Ⅱ 第4章 三角関数 1 三角関数 2 加法定理	- 座標や式を用いて、直線の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 - 座標や式を用いて、円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 - 図形を、与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 - 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。 - 加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。
二学期中 間考查まで	数学Ⅱ 第5章 指数関数と対数関数 1 指数関数 2 対数関数 数学B 第3章 数列 1 等差数列と等比数列 2 いろいろな数列	- 指数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 - 対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 - 数列やその一般項の表し方について理解する。また、基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。 - 和の記号Σの表し方や性質を理解し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。
二学期末 考查まで	3 漸化式と数学的帰納法 数学Ⅱ 第6章 微分法と積分法 1 微分係数と導関数 2 導関数の応用	- 数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また、数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。 - 微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 - 導関数の理解を深めるとともに、導関数の有用性を認識できるようにする。
学年末 考查まで	3 積分法 数学B 第4章 確率分布と統計的な推測 1 確率分布 2 統計的な推測	- 積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 - 確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。 - 母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。
評価方法	【知識・技能】授業・課題・単元テスト・定期考查等で判断する。 【思考力・判断力・表現力】授業中の解答状況や発表、課題、定期考查等で判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】出席状況、授業態度、授業中の発表、提出物等の状況等で判断する。	

令和5年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コース	履修区分	単 位 数
理 科	生物基礎	2	英語・人文	必 修	2
使用教科書 副教材等	高等学校 生物基礎（第一学習社）、新コンセプトノート生物基礎（浜島書店）				
学習目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を養う。				

授業計画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期 期末 考查まで	第1編 生物の特徴 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とその働き	・生物に共通してみられる特徴や、生物にそのような特徴がみられる理由について観察や資料などから見いだして理解する。 ・ATPという物質が、代謝でエネルギーが出入りする際の仲立ちをしていることを理解する。 ・DNAの構造は、遺伝情報を保持し複製するのに適していることを理解する。 ・DNAの遺伝情報にもとづいて、タンパク質が合成される過程を理解する。
二学期 中間 考查まで	第2編 ヒトのからだの調節 第3章 ヒトのからだの調節	・体内環境をほぼ一定に保ち、からだの状態を安定に維持するために、内分泌系と自律神経系が働いていることを理解する。また、それらの働きの違いを理解するとともに、これらが協調して働いていることを理解する。 ・ヒトには病原体からからだを守るしくみとして、病原体の侵入を防ぐしくみや、侵入した病原体を白血球によって排除するしくみが備わっていることを理解する。さらに、自然免疫と獲得免疫のそれぞれのしくみについて理解する。
二学期 期末 考查まで		
学年 末 考查まで	第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生と遷移 第5章 生態系とその保全	・地球上のそれぞれの地域にはさまざまな環境の違いがあり、その環境に適応した生物が生活している。それぞれの地域で環境に応じて植生は移り変わり、分布に違いが生じることを理解する。 ・生態系を構成する非生物的環境と生物はどのように関わっているのか。生物どうしはどのようなつながりをもって生活しているのか。また、人間活動が生態系にどのような影響を及ぼしているのかを理解する。
評価 方法	【知識・技能】 小テスト、定期考查等で評価する。 【思考・判断・表現】 定期考查、実験ノート等の内容で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業態度及び発表、実験ノート・提出物等の内容で評価する。	

令和5年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コース	履修区分	単 位 数
理科	地学探究	2 年	英語系・人文系	選択	1
使用教科書 副教材等	地学学習帳2023				
学習目標	地学基礎で学んだ地球や宇宙に関するさまざまな地学的現象が、どのように解明されてきたかを実験や実習を通して考えさせることで理解を深めさせる。また、これらを通して科学的な考え方や態度、高度な知識を身に付けさせる。				

授業計画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期 期末 考查 まで	A 地球の歴史 1 地球の歴史 2 地層からわかること	- 私たちの暮らす地球の誕生から現在に至るまでの変遷について、地球環境の変化と生物の活動を踏まえながら、一連の時間の中で捉えて理解する。 - 堆積岩とその形成や地層と地質構造について学び、それらの情報を基に、地球の過去の出来事を地層からどのように読み解くかについて理解する。
二学期 中間 考查 まで	3 太陽と太陽系の惑星 B 地球の姿 1 愛媛の地質 2 火成岩の観察	- 惑星のデータや黒点の移動からデータ処理能力と科学的思考力を養う。 - 恒星の1つである太陽の誕生と進化の過程と、太陽系の天体の特徴を理解する。また、宇宙の進化についても理解を深める。 - 愛媛の地質について、その特徴を学ぶ。 - 火成岩の特徴や分類方法を、実験を通して身に付けるとともに、その特徴を理解する。
二学期 期末 考查 まで	C 大気と海洋 1 地球のエネルギー収支 2 雲と風	- 日射量から太陽放射エネルギーを測定し、グラフ作成やデータ解析能力を身に付けさせる。 - 大気と海洋の大循環及び、それらが気候に与える影響についてデータを基に科学的に考察する能力を養う。
学年 末 考查 まで	3 日本の天気 D 自然との共生 1 自然の恩恵 2 自然災害と防災	- 日本の四季の特徴や天気図の読み取りについて理解を深める。 - エネルギー資源や鉱物資源など、自然から受けている恩恵について理解し、その有効活用に努める意識を養う。 - 地震や火山、気象などの災害について理解し、防災・減災対策のために行動できる判断力と実行力を養う。
評価 方法	【知識・技能】 定期考查、小テスト等で評価する。 【思考・判断・表現】 定期考查、観察・実験の態度及び記述等で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 出欠状況、授業態度及び発表、課題への取組等で評価する。	

令和5年度 学習シラバス

教科	科目	履修学年	コース	履修区分	単位数
理科	化学探究	2年	英語系・人文系	選択	1
使用教科書・副教材等	化学基礎・化学実験ノート（愛媛県高等学校教育研究会理科部会化学部門） 新課程対応 ケミ探＋化学基礎（啓林館）				
学習目標	実験を通して、自然現象や身近な生活の中で利用されている物質の化学的な性質を学び、化学的な概念や原則についての理解を深め、科学的な思考力・判断力・表現力を養う。				

授業計画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期期末 考查まで	I 物質の成分と構成元素 1 基本操作 2 混合物の分離 3 食塩と砂糖の成分元素 4 ヨウ素の同素体 5 硫黄の同素体 II 原子の構造と元素の周期表 6 アボガドロ定数の測定 III 物質と化学結合 7 水溶液とイオン 8 物質の極性と性質 IV 物質と化学反応式 9 マグネシウムと塩酸の反応 10 炭酸カルシウムと塩酸の反応	- 物質の性質を調べるために、物質の分類や分離・精製法、物質の状態変化について理解する。 - 熱による物質の状態変化について理解する。 - 物質は原子、分子、イオンが集まってできていることと、原子の構造を理解する。 - イオンの性質とその生成の仕組みを理解する。 - 周期律と周期表、元素の性質について理解する。 - さまざまな化学結合について理解する。 - 物質の量的な表し方について理解する。 - 化学反応により起こる量的な変化について理解する。
一学期中間 考查まで	V 酸と塩基の反応 11 pHの変化と指示薬 12 中和反応の量的関係 13 酸・塩基の中和滴定 14 中和滴定曲線 15 塩の水溶液の性質	- 酸と塩基の性質とその反応の仕組みを理解する。 - pHが酸・塩基の度合いを表すものであることを理解する。
一学期期末 考查まで	VI 酸化還元反応 16 酸化と還元 17 過マンガン酸カリウム水溶液と過酸化水素水の酸化還元滴定 18 金属のイオン化傾向	- 酸化還元反応の仕組みを理解する。 - 酸化数の考え方を理解する。 - 代表的な酸化剤と還元剤について、その反応について理解する。
学年末 考查まで	25 電池 26 電気分解（電極付近の変化） 27 電気分解（銅の電解精錬）	- 酸化還元反応が日常生活において多く利用されていることを理解する。 - 電池について理解する。 - 電気分解について理解する。
評価方法	【知識・技能】 小テスト、定期考査、ノートの記述、観察・実験の態度、実験プリントの記述で評価 【思考・判断・表現】 授業発表、観察・実験の態度、ノートの記述、定期考査等で評価 【主体的に取り組む態度】 出欠状況、授業態度、授業発表、ノート等の整理状況で評価	

令和5年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コ ー ス	履修区分	単 位 数
保健体育	体 育	2	全（女子）	必 修	3
使用教科書 ・副教材等	現代高等保健体育改訂版（大修館書店）				
学習目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				

授 業 計 画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期期末 考查まで	体づくり運動 球技Ⅰ 「ソフトボール」・「テニス」 水泳 「各種泳法（クロール・平泳ぎ）」 体育理論 「運動・スポーツの学び方Ⅰ」	・中央高校体操、体ほぐしの運動、体力を高める運動などを通して、運動の意義や方法を理解できるようにする。 ・集団行動の主な行動様式を身に付け、集団の約束や決まりを守って行動できるようにする。 ・積極的な打撃と守備の連携プレイによって、攻防を展開できるようにする。（ソフトボール） ・パートナーと連携し、相手コートに空いている場所をめぐる攻防が展開できるようにする。（テニス） ・自己に適した泳法の効率を高めて、泳ぐことができるようにする。 ・水泳の事故防止に関する心得を理解し、健康・安全を確保して活動できるようにする。 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにする。
二学期中間 考查まで	球技Ⅰ 「ソフトボール」・「テニス」 ダンス 「現代的なリズムのダンス」	・状況に応じた攻撃や走塁と守備の連携プレイによって、攻防を展開できるようにする。（ソフトボール） ・パートナーと連携し、コースや球種を打ち分けるストロークによって攻防を展開できるようにする。（テニス） ・リズムの特徴をとらえ、変化とまとまりをつけて、リズムに乗って全身で踊ることができるようにする。
二学期期末 考查ま	球技Ⅱ 「テニス」・「ソフトボール」 体育理論 「運動・スポーツの学び方Ⅱ」	・パートナーと連携し、相手コートに空いている場所をめぐる攻防が展開できるようにする。（テニス） ・積極的な打撃と守備の連携プレイによって、攻防を展開できるようにする。（ソフトボール） ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにする。
学年末 考查まで	陸上競技（中・長距離走） 体育理論 「運動・スポーツの学び方Ⅲ」	・自己の能力に応じて、中・長距離を速く走ることを目指し、ねばり強く走りきれぬ根気と体力を養う。 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにする。
評価方法	【知識・技能】行動観察（運動の特性やルールなどの理解）、スキルテストやペーパーテストなどで評価する。 【思考・判断・表現】授業中の発表、行動観察、ワークシートの記述内容などで評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】出欠状況、授業態度、授業中の発表などで評価する。	

令和5年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コ ー ス	履修区分	単 位 数
保健体育	体 育	2	全（男子）	必 修	3
使用教科書 ・副教材等	現代高等保健体育改訂版（大修館書店）				
学習目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				

授 業 計 画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期期末 考查まで	体づくり運動 球技Ⅰ 「バドミントン」・「ハンドボール」 水泳 「各種泳法（クロール・平泳ぎ）」 体育理論 「運動・スポーツの学び方Ⅰ」	・中央高校体操、体ほぐしの運動、体力を高める運動などを通して、運動の意義や方法を理解できるようにする。 ・集団行動の主な行動様式を身に付け、集団の約束や決まりを守って行動できるようにする。 ・パートナーと連携し、相手コートに空いている場所をめぐる攻防が展開できるようにする。（バドミントン） ・グループで、走りながらのプレイを使って、スペースを生かした攻防を展開できるようにする。（ハンドボール） ・自己に適した泳法の効率を高めて、泳ぐことができるようにする。 ・水泳の事故防止に関する心得を理解し、健康・安全を確保して活動できるようにする。 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにする。
一学期中間 考查まで	球技Ⅰ 「バドミントン」・「ハンドボール」	・パートナーと連携し、コースや球種を打ち分けるストロークとその予測によって攻防を展開できるようにする。（バドミントン）。 ・状況に応じてパスやシュートを使い分け、チームで連携したプレイによってスペースに応じた攻防ができるようになる。（ハンドボール）
二学期期末 考查まで	球技Ⅱ 「ハンドボール」・「バドミントン」 体育理論 「運動・スポーツの学び方Ⅱ」	・グループで、走りながらのプレイを使って、スペースを生かした攻防を展開できるようにする。（ハンドボール） ・パートナーと連携し、相手コートに空いている場所をめぐる攻防が展開できるようにする。（バドミントン） ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにする。
学年末 考查まで	陸上競技（中・長距離走） 体育理論 「運動・スポーツの学び方Ⅲ」	・自己の能力に応じて、中・長距離を速く走ることを目指し、ねばり強く走りきれぬ根気と体力を養う。 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにする。
評価方法	【知識・技能】行動観察（運動の特性やルールなどの理解）、スキルテストやペーパーテストなどで評価する。 【思考・判断・表現】授業中の発表、行動観察、ワークシートの記述内容などで評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】出欠状況、授業態度、授業中の発表などで評価する。	

令和5年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コ ー ス	履修区分	単 位 数
保健体育	保 健	2	全	必修	1
使用教科書 ・副教材等	現代高等保健体育（大修館書店）				
学習目標	生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること及び我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることについて理解できるようにする。				

授 業 計 画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一 学 期 期 末 考 査 ま で	「生涯を通じる健康」 1 ライフステージと健康 2 思春期と健康 3 性意識と性行動の選択 4 妊娠・出産と健康 5 避妊法と人工妊娠中絶 6 結婚生活と健康	・生涯にわたって健康を保持増進するには、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりがかかわっていることを理解する。 ・生涯にわたって健康を保持増進するには、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりがかかわっていることを理解する。
二 学 期 中 間 考 査 ま で	7 中高年期と健康 8 働くことと健康 9 労働災害と健康 10 健康的な職業生活 「健康を支える環境づくり」 1 大気汚染と健康 2 水質汚濁、土壌汚染と健康	・生涯を通じて健康の保持増進をするには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが重要であることを理解する。 ・人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすこともあり、それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策をとる必要があることを理解する。
一 二 学 期 期 末 考 査 ま で	3 環境と健康にかかわる対策 4 ごみの処理と上下水道の整備 5 食品の安全性 6 食品衛生にかかわる活動	・ごみの処理の現状やその課題について説明できる。 ・食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解する。
学 年 末 考 査 ま で	7 保健サービスとその活用 8 医療サービスとその活用 9 医薬品の制度とその活用 10 さまざまな保健活動や社会的対策 11 健康に関する環境づくりと社会参加	・環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものとすよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解する。 ・医薬品の正しい使用法、医薬品の安全性を守る取り組みについて理解する。 ・環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながるということを理解する。
評 価 方 法	【知識・技能】授業中の発表、行動観察（グループワーク）、ペーパーテスト（期末考査）などで評価する。 【思考・判断・表現】授業中の発表、行動観察（グループワーク）、ノートの記述内容などで評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】出欠状況、授業態度、授業中の発表などで評価する。	

令和5年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コース	履修区分	単 位 数
英語	ディベート・ディスカッションⅠ	2	英語	必修	2
使用教科書 副教材等	Speak Easy From Basic Conversation to Simplified Debate (金星堂)				
学習目標	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、多様な考え方ができる話題について自分の意見を発表したり相手の意見を聞いたりする活動を通して、人間性や社会性を育む。				

授業計画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期末 考查まで	Simplified Debate Unit 11 Simplified Debate 1 Unit 12 Simplified Debate 2 Unit 13 Simplified Debate 3 Unit 14 Simplified Debate 4 Unit 15 Simplified Debate 5	・主張の理由や具体例を示す。(ディベート用語や役割の説明・立論のスピーチテンプレートを用いた原稿作りの練習) ・理由や具体例を示して立論する。(さまざまな論題についての立論作りの練習) ・相手の立論に反論する。(アタックやディフェンスの役割の説明・反論のスピーチテンプレートを用いた原稿作りの練習) ・立場や見方を変えて反論を発想する。(さまざまな立論に対する反論のスピーチ作りの練習) ・聴衆の立場で評価する。(フローシートを用いた評価の練習)
二学期中 間考査まで	Presentation Unit 8 Presentation 1 Unit 9 Presentation 2 Unit 10 Presentation 3	・プレゼンテーションの基本構造(出だしと結びについて) ・プレゼンテーションの具体的な内容(ボディについて) ・グラフを用いたプレゼンテーション
二学期末 考査まで	Discussion Unit 6 Discussion 1 Unit 7 Discussion 2	・自分の意見を述べる。('先に主張したいこと'・'理由'・'相手の意見へのコメント')を述べる際によく使われる表現の練習) ・リーディングやリスニングを通して、相手の主張を理解する練習をする。 ・理由と度合いを示して同意・反論をする。(相手の主張に同意・反対する際に、程度に合わせた言い方で根拠・理由を述べる練習)
学年末 考査まで	Conversation Unit 1 Conversation 1 Unit 2 Conversation 2 Unit 3 Conversation 3 Unit 4 Conversation 4 Unit 5 Conversation 5	・さまざまな場面設定において、挨拶や会話の練習をする。 ・互いの紹介の内容を深めながら、会話の練習をする。 ・普段の習慣とその頻度について話す。 ・過去の出来事について話す。 ・未来やこれからの予定について話す。
評価方法	【知識及び技能】 授業中の発表・ペアワーク・小テスト・定期考査・パフォーマンステスト等で評価する。 【思考力・判断力・表現力等】 授業中の発表・ペアワーク・小テスト・定期考査・パフォーマンステスト等で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 出席状況・授業態度・授業中の発表・ペアワーク・ノートやプリントの整理状況等で評価する。	

令和5年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コース	履修区分	単 位 数
外国語	論理・表現Ⅱ	2年	全	必修	2
使用教科書 副教材等	APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION Ⅱ（開隆堂） チャート式 BIG DIPPER（数研出版）				
学習目標	多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ち、意見、主張などを論理の構成や展開を工夫して、伝えることができる。				

授業計画

	学 習 内 容	学 習 の ん ら い
一学期末 考查まで	Lesson 1 Reflections Before Starting a New Life Lesson 2 Let Your Dreams Come True Step-up Paragraph Writing 1 Lesson 3 Dos and Don'ts in Social Media Scene 1 電話をしよう Lesson 4 Future Prospects Step-up Presentation 1	・ 現在と過去を表す表現 自分や友だちの興味・関心について紹介する。 ・ 未来を表す表現 自分の将来の計画や夢について紹介する。 ・ 構成を考えながら英文を作る。 ・ 助動詞 SNSの使い方について発表する。 ・ 電話をするときの多様な状況を想定して会話をする。 ・ 完了形 将来予測される事柄について発表する。 ・ スライドを使ってプレゼンテーションをする。
二学期中 間考査まで	Lesson 5 Let's Keep in Good Shape Scene 2 買ったものを交換しよう Lesson 6 Energy Consumptions in the World Lesson 7 Voter Turnout in Comparison Step-up Debate 1	・ 受動態 健康によいと言われている行動について発表する。 ・ 購入品を交換する状況を想定して会話をする。 ・ 比較①（比較級、最上級） 世界のエネルギー消費の実態について、問題点も含めて発表する。 ・ 比較②（同等比較、倍数比較） 国ごとの投票率の違いについて、その背景を含めて発表する。 ・ ディベートの準備をする。
一学期末 考査まで	Lesson 8 What Has Impressed Me the Most Scene 3 招待状を書こう Lesson 9 Sports for Everybody Step up Paragraph Writing 2 Lesson 10 The Latest News from around the World	・ 動名詞 これまでに感銘を受けた人物や本などについて紹介する。 ・ さまざまな場面で招待状を書く想定で文章を書く。 ・ to不定詞 年齢・性別に関係なく楽しめるスポーツについて紹介する。 ・ 複数のパラグラフに分けて、意見や考えをまとめながら英文を書く。 ・ 分詞（現在分詞、過去分詞） 報道番組で取り上げたいニュースについて説明する。
学年末 考査まで	Lesson 11 Let's Find Out What We Can Do for Others Step-up Presentation 2 Lesson 12 Learn about Other Countries and People Lesson 13 Global Issues Lesson 14 Food Culture around the World Step up Debate 2	・ 関係詞①（関係代名詞） 国内外で必要とされているボランティア活動について発表する。 ・ データを使ってプレゼンテーションをする。 ・ 関係詞②（関係副詞） 将来住みたい場所について、その魅力が伝わるように説明する。 ・ 仮定法 環境問題や社会問題について、その解決方法を的確に説明する。 ・ 特殊構文 さまざまな国の食文化について、その背景も含めて発表する。 ・ オンライン通信はよいかどうかについて本格的なディベートをする。
評価方法	【知識・技能】 小テスト、定期考査等で評価する。 【思考・判断・表現】 発表、小テスト、定期考査、提出課題で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 出欠状況、授業態度、発表（スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション）、提出課題、ノートの整理で評価する。	

令和5年度 学習シラバス

教 科	科 目	履修学年	コース	履修区分	単 位 数
情報	情報 I	2年	全	必履修	2
使用教科書 副教材等	最新情報 I (実教出版) 最新情報 I 学習ノート(実教出版)				
学習目標	情報社会に主体的に参画するため、情報に関する科学的な見方・考え方を身に付け、身の回りの問題を発見し、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して解決する資質・能力を身に付ける。				

授業計画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期末 考查まで	○オリエンテーション 1章 情報社会と私たち 1 情報社会 2 情報社会の放棄と権利 3 情報社会が築く新しい社会 2章 メディアとデザイン 1 メディアとコミュニケーション 2 情報デザイン 3 情報デザインの実践	情報社会の現状や特性について理解する。 情報化が個人に及ぼす影響について理解する。 著作権等の権利や、それらを利用したり保護する重要性を理解し、情報モラルを守って行動できるようにする。 各メディアの特性について知り、特にインターネットを用いてより効果的なコミュニケーションができるようにする。 情報をわかりやすく伝達するための技術を学び、より効果的に情報発信ができるようにする。
二学期末 考查まで	3章 システムとデジタル化 1 情報システムの構成 2 情報のデジタル化 4章 ネットワークとセキュリティ 1 情報通信ネットワーク 2 情報セキュリティ 5章 問題解決とその方法 1 問題解決 2 データの活用 3 モデル化 4 シミュレーション	コンピュータの構成やデジタル化の原理や利点を理解し、情報を適切に活用する知識を身に付ける。 情報通信ネットワークの構成について理解し、ネットワークを効率的に利用するための取り決めについて理解するとともに、データを効率よく転送する工夫についても理解する。 情報セキュリティを確保する方法と技術について学び、情報を安全に取り扱うことができるようにする。 見出された問題を、明確化・整理・分析することにより合意形成を目指した解決案を決定する方法について理解する。 データを収集・整理・分析し、問題解決のために活用する手法について理解する。
学年末 考查まで	6章 アルゴリズムとプログラミング 1 プログラミングの方法 2 プログラミングの実践	プログラミング言語の種類や特徴について理解する。 変数や関数を使用したプログラムを設計するための基礎を理解する。 問題解決のためのアルゴリズムを考え、プログラムを作成することができる。
評価方法	【知識・技能】：定期考查、実習における処理の速さや正確性等で評価する。 【思考・判断・表現】：定期考查、実習における取組等で評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】：授業態度、学習ノートの整理状況等で評価する。	